

# 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3770103111		
法人名	有限会社 國村不動産		
事業所名	グループホーム愛の里		
所在地	香川県高松市上福岡町2005-11		
自己評価作成日	平成25年5月17日	評価結果市町受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaijokensaku.jp/37/index.php?action_kouhyou_detail_2012_022_kani=true&amp;JirgysoCd=3770103111-00&amp;PrefCd=37&amp;VersionCd=022">http://www.kaijokensaku.jp/37/index.php?action_kouhyou_detail_2012_022_kani=true&amp;JirgysoCd=3770103111-00&amp;PrefCd=37&amp;VersionCd=022</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人香川県社会福祉協議会
所在地	香川県高松市番町一丁目10番35号
訪問調査日	

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>全ての利用者のメリハリのある生活のために、多数の芸能ボランティアの方々の協力を得て、毎月多数の行事を開催している。職員は、常に笑顔で業務が遂行できるように、運営者は支援している。また、職員の介護能力や知識の向上のために、内部研修の充実化と外部研修にほとんどの職員を参加させている。</p>
---

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点】

<p>3階建ての2階・3階(2ユニット)のホーム内は、ゆとりと清潔感溢れる生活空間があり、移動の安心・安全確保(床シート等)に配慮している。8年目を迎え、地域交流(地区行事・事業所行事の相互参加、商店等との交流、公園での夏祭りイベントの交流、多数のボランティア・幼稚園児の訪問等)に積極的な取り組みが進んでいる。職員は、事業所理念の「笑顔で一日を過ごしましょう」を日々の支援に繋げており、利用者の明るい笑顔と会話がいつも聞こえている。利用者の個別ケアに取り組み、重度化や終末期に向けた事業所の方針と職員への周知、利用者・家族と話し合いができる体制を整えている。</p>
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き生きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	グループホーム愛の里(2F)	

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念の「笑顔で一日を過ごしましょう」を朝食前に職員と利用者とともに声に出し、その日の最後を笑顔で終われるようにしている。	事業所の理念である「笑顔で一日を過ごしましょう」を、玄関、リビング、更衣室等に掲示し、職員と利用者が共に毎朝唱和し、共有して実践につなげるよう努めている。	理念は職員によく周知されているが、ケアにおける具体的な支援を明文化する等して、さらに理念を共有・意識づけて、サービスの向上に繋がることを期待する。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会長の協力や地域の方の助言をいただき、取り組んでいる。また、夏祭り等の催しでは、自治会広報と一緒に祭りの案内を行っている。ハロウィンでは、近所の保育所との交流があり、事業所で作ったどてかぼちゃは近隣の商店や銀行に展示している。また、地域の行事に職員が参加している。	地区行事・公園清掃・消防訓練等に参加したり、事業所行事・公園での夏祭り・運動会での交流や、ボランティア(オルガン・日舞・フラダンス・オカリナ・コーヒータイム等)や幼稚園児の訪問、利用者の散歩・買い物時の挨拶等を積み重ねることで、地域との繋がりが広がっている。	事業所の1階の会議室等を活用した地域交流(住民や老人クラブの講習・研修等)の企画を打ち合わせ中であり、地区での役割を積極的に担っていく計画の実現に期待する。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	夏祭り等の事業所外の行事には、地域住民の参加が多数あり、また、地域の商店・銀行等の協力を得ている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議のメンバーに行事に参加していただき、助言や感想をいただいている。また、相談した内容等を全体会議やユニットで話し合い、質の向上に取り組んでいる。	地域の自治会長、住民、家族、利用者等の参加を得て、事業所の報告や意見交換で理解と支援を受けている。	運営推進会議が、地域住民の理解と支援を得る双方向的な会議(支援の質問・意見・要望等)として位置づけられ、メンバーに運営の協力とモニター役になっていただき、さらにサービスの向上に繋がるよう期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市町村担当者と連絡を取り合い、相談や情報収集を行っている。また、地域の公園の利用、車椅子や夏祭りの提灯の借用等、市町村と連携を行い、よりよい協力体制に努めている。	運営推進会議や介護認定の更新時等の機会を捉えてホームの取り組みを伝え、連絡と情報を得よう努めている。また、地区での行事開催時には助言や協力を得ている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	全体会議や勉強会を行うことで、職員一人ひとりが身体拘束への理解を深めている。また、事業所一階玄関の施錠は行っていないが、他の各フロアについては、利用者の安全面を考慮し、施錠している場所もある。	職員は、全体会や勉強会で身体拘束について共有・理解できており、1階玄関は施錠せず、2階・3階は職員が付き添ってエレベーターで移動している。また、利用者が安全に暮らせる工夫等で家族の理解を得よう努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	常に虐待に対し、意識や理解力向上のため、勉強会やミーティングで指導を行っている。運営者は、全体会等で言葉遣いの指導・指示を行っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	地域権利擁護事業や成年後見制度について勉強会を行う等しているが、まだまだ理解という面ではできていない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用案内時に、契約書や重要事項説明書等の疑問点等を尋ねながら、十分に理解をしていただけるよう時間を取り、丁寧に解りやすく説明をしている。また、変更点は各家族に送付し、同意を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者の意見や面会時の話し合いの内容等、家族会で意見をいただいている。また、家族の意見・要望について、ユニットミーティングで話し合いに取り組んでいる。	家族会、家族の面会、毎月の連絡・報告時、運営推進会議等で意見や要望を聞き、家族から信頼と安心を得ている。いただいた意見や要望は職員に周知し、サービス向上に反映するよう努めている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月一回、全体会議とユニットミーティングで意見を聞いている。また、各担当者において、個別に意見を聞く機会を設けている。	管理者と職員のコミュニケーションは良く、全体会、ユニットミーティングや勉強会の機会を捉え、意見やアイデアを出している。	職員間の意思疎通をさらに良くするよう、代表者や管理者が職員に問いかけたり聞き出したり、一緒に話し合いながら調整し、さらに運営に反映されることを期待する。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員個々に相談、助言等を行っている。それにより、個人の不安点・問題点に向き合い、早期の解決・成長・ケアの質の向上に繋がるように取り組んでいる。勤務については月に3日の希望休を聞いている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	各個人に合った研修を勧めている。また、研修を行い、身に付けた知識・技術についても勉強会に取り入れ、職員全体で質の向上に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	香川県グループホーム協議会及び日本グループホーム協会の会員であり、研修・講習等に職員が参加しており、交流と質の向上を図っている。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	相談から利用に至るまで、本人自身からはなかなか話を聞けていない。不安等の訴えは、家族等と相談しながら解消するようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	相談等、本人や家族の思い、状況等を確認しながら面接チェック表の記録を取り、少しでもたくさんの方が受け止められるように努めている。家族等の要望は、全職員が全体会議・ユニットミーティングを通して共有できるようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	事業所の説明をして本人・家族等の事情や要望をもとに、何が必要かを見極め、事業所としてできる限りの対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常生活を共に支援しながら行っている。行っていただいたことに対し、感謝や協力の気持ちを伝えている。また、個人に応じた役割をさせていただいている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	個別ケアに取り組む中、各職員に担当の利用者を設けている。月間報告書とは別に、利用者について家族等と連絡を取りながら、利用者を支える関係を築いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族等と連絡を取り、ご近所等に面会に来ていただいたりしている。慶弔時への参加も積極的に支援をしている。	家族や親類の訪問等を大切にして、関係が途切れないように支援し、家族や地域の馴染みの人、馴染みの場所との繋がりを継続できるよう努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ユニットが別になっている利用者と利用者との交流を深める時間を設けたり、利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	利用が終了した本人や家族等に、いつでも相談や支援に応じる姿勢を示している。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者の嗜好品等について希望や意向を聞き、できるだけ取り入れるように努めている。また、各個人の生活歴を把握し、居室は居心地の良い親しみやすい環境作りに努めている。	担当職員を中心に、利用者一人ひとりの思いを聞くよう介護記録の書式を見直し、行きたいところ・食べたいもの・暮らし方等の思いに添える支援に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用者が自分らしく生活していく支援として、生活歴を理解して、サービス利用に至るまでの生活が継続していけるように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	生活の流れや過ごし方を、職員一人ひとりが見落としなく理解できるように、介護記録の書式の見直しに取り組み、より良くできるように努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	月一回、介護支援専門員と利用者担当職員を中心にミーティングを行い、それぞれの意見を出し合い、利用者・家族等の意見を反映して介護計画の見直しや作成を行っている。	担当職員を中心に、利用者・家族の情報を共有したアセスメント表からモニタリングをまとめ、ユニットミーティングで意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の受診記録や介護記録で対応しており、介護計画の見直しに活かしている。また、家族等と連絡を取り合い、利用者へのより良い対応に反映している。		

グループホーム愛の里(2F)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者・家族等の状況に応じて、通院の必要な支援は柔軟に対応している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	博物館・公園等に訪問している。消防防火訓練・緊急時の対応について、消防署職員が年に数回事業所に来ている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者や家族等と密に話し合い、適切な医療が受けられるように努めている。また、馴染みのかかりつけ医や事業所の協力医へのスムーズな受診を支援している。	かかりつけ医・協力病院受診、週1回の歯科医・歯科衛生士の往診等で対応ができており、家族が対応できないときは職員が支援し、情報を共有できている。また、事業所の看護師による健康管理や相談など、適切な医療を受けられるように努めている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	事業所の看護職員に健康管理について相談ができる体制を取っている。また、内用薬等は効能についてアドバイスを受けながら、管理・対応している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	家族等と情報交換をしながら、回復状況等、速やかな退院支援に結び付けている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期の利用者への対応マニュアル等を作成して、かかりつけ医との連携を取れるように体制作りをしている。	入居時に「重度化・終末期ケア」について、事業所のできることと家族の希望を話し合い、理解・同意を得ている。職員は利用者が重度化等した場合は、状況に合わせて家族と主治医との話し合いを重ねることで理解を得、マニュアルを基に支援する体制づくりに努めている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時や事故対応マニュアルを作成しており、消防を招き、急変時の対応についての訓練を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防指導により、災害時の避難誘導について指導を受けている。家族会でも説明を行い、話し合う場を設けている。	消防士の指導を得て、年2回の防火・災害訓練を実施して、役割や避難方法を確認している。夜間を想定した訓練も実施している。訓練の結果は、運営推進会議で報告し理解を得ており、近隣者の協力も得ている。	災害対策については、常に話し合いや避難訓練のシミュレーション等を繰り返し実施して全員が共有し、運営推進会議や地区組織等を通して、さらに地域の理解と近隣の協力を得られる体制の構築と避難訓練の実施が期待される。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの自尊心や羞恥心を尊重して、プライバシーの確保を徹底して行えるようにユニットミーティング等で話し合っている。	職員一人ひとりが、利用者の人格を尊重する言葉かけや対応に努めている。さらに、事業所内外の研修や報告等で、一人ひとりを尊重したプライバシーの確保に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	食事について、利用者の希望を尊重しつつ、嚥下や咀嚼に応じて形態を変更し、柔軟に対応している。外出や行事参加等についても、利用者の好みや希望を取り入れ、対応できるように努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個人の生活リズムや体調に合わせてながら、希望に沿った暮らしを提供できるように努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	散髪の希望があれば、理容師に来ていただき、好みのスタイルにさせていただいている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事中には食材や料理の話題を提供して、楽しい時間となるよう努めている。また、食事の片づけ等、利用者と職員と一緒にできるように取り組んでいる。	毎食の調理の音や匂い等で五感を刺激し、食欲や食事への関心を高めている。調理には、砂糖の代わりに希少糖含有のシロップ(肥満・糖尿病予防)を先駆的に取り入れ、健康作りを支援している。毎食事時に食材・調理等を話題にしたり、おやつ作り等で食事を楽しむ支援に努めている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分摂取量の少ない方へは、好みの飲料の提供を行っている。また、嚥下困難な利用者へは、とろみ剤の使用で水分の確保ができるように支援している。水分量も詳しく記録している。		

グループホーム愛の里(2F)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎週一回、歯科の訪問がある。歯科の指導のもと、ケアに取り組んでいる。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	各個人の排泄パターンを把握できるように努めている。また、排泄の訴えがない方には、羞恥心を尊重しながら声かけを行っている。	一人ひとりの排泄パターンを把握して、声かけや誘導等で自尊心に配慮した、自立を保持する支援に努めている。特に夜間は、利用者の個別性に配慮した支援に努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便チェック表を使用することで、申し送りを徹底し、各個人の排泄について理解を深めている。できるだけ下剤等を使用しないように、飲食物での対応に努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	時間帯については、訪問行事等で利用者が希望するタイミングに合わせて入浴を行っていないが、個々に合わせてゆとりを持って入浴している。	一人ひとりの習慣や意向に沿うよう努め、利用者の希望や体調に柔軟に合わせて入浴を行っている。1階には特別浴機器を設置しており、利用者が選択できる。入浴を拒む人には、チームプレイ等で工夫した支援ができています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	消灯時間があるが、利用者の生活歴に合わせた対応をしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	内服薬等について、事業所の看護職員へ相談できる体制を取っている。服薬時は、確認と介護記録への記入を行い、支援している。また、受診ファイルを設け、一人ひとりの薬の用法・用量等について把握している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	折り紙作りや掃除等の軽作業を依頼し、やりがいを持てるように支援している。		



グループホーム愛の里(2F)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	近所の公園へ散歩に出かけたり、家族に協力をしていただき、買い物や外食へ行けるように支援している。	少人数での散歩や買い物・外出等は、一人ひとりの希望や体調に沿った支援に努めている。また、行事参加や定期的な外出行事、家族の協力等により、外出の機会を増やすよう努めている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者や家族等と相談しながら、病院受診時の支払いをしていただけるように努めている。また、財布にお金を入れることで、安心感を持っていただけるように支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望に応じて電話を使用する支援を行っている。また、遠方に住んでおられる家族等から手紙もあり、やり取りができるように努めている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居間に季節の花を生ける等して、季節感を取り入れている。浴室やトイレ等、安心していただけるように努めている。	落ち着いたリビング・食堂・畳の休憩所など、共用空間は清潔で明るく、開放感に溢れている。季節の手作りカレンダーや献立表等が置かれ、穏やかに過ごせる工夫がされている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールにソファを置いたり、和室で寛いでいただけるスペースを設けて、一人ひとりが安楽に過ごしていただけるように努めている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使用されていたタンスや家具等を使用していただいている。	居室にはベッドが備えられ、寝具や筆筒・物入れ・小物・テレビ・写真・タペストリー等の馴染みの物を持ち込み、利用者が家庭的な雰囲気を感じて安らぎを得られるよう工夫している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	転倒時の骨折予防のため、圧縮素材のフロアを使用している。トイレを使用している、していないの札を設けて利用しやすいようにしている。		

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します							
項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/>	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/>	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/>	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

## 自己評価結果

自己	外部	項目	自己評価
			実践状況
<b>I. 理念に基づく運営</b>			
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事務所やトイレ、ホール等の目につく所へ理念を書いた紙を貼り付けている。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会長の会議への参加や、事業所の行事ごとに地域から参加・協力を得ている。また、地域の行事に職員が参加している。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	夏祭り等の事業所外の行事には、地域住民の参加が多数あり、また、地域の商店・銀行等の協力も得ている。
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議での情報共有を得ている。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議に参加してもらい、協力関係を築けるよう、相談や報告を行っている。備品の借り出しによる協力関係がある。
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	常々、安心安楽な過ごし方や提供を考えの中で、意識し合えるよう話し合っている。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	直接的な身体虐待以上に、言葉による暴力や虐待について職員間で意識し合っている。運営者は、全体会等で言葉遣いの指導・指示を行っている。

自己	外部	項目	自己評価
			実践状況
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	学びの機会はあるものの、活用の機会は持っていない現状である。
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用案内時に全文を読み合わせして、不安や疑問のないように説明・対応している。後日、何かあれば、随時対応を取れるよう努めている。また、変更点は各家族に送付し、同意を得ている。
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会議での対話から関係をつくっている。所用や面会時、来所の際に、気軽に意見等が話せる関係作りを心がけている。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に一度のミーティング、全体会にそれぞれ参加している。シフトの都合や休みの予定もそれぞれあり、均一に意見収集できているかと言えば、難しい。ノートの活用をしながらの反映が現状と思っている。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	入居者様一人ひとりに対しての担当制やシフトごとの役割分担により、やりがいや責任感を持って仕事に取り組めるようにしている。
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部への研修の参加や全体会後の内部勉強会を活かしつつ、取り組んでいると思う。
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	香川県グループホーム協議会及び日本グループホーム協会の会員であり、研修・講習等に職員が参加し、交流と質の向上を図っている。

自己	外部	項目	自己評価
			実践状況
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>			
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	面談を通じ、できる限り困っていることや要望を聞き取り、関係作りに努めている。また、本人が事業所になじむまでは、様々な面で支援している。
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	電話等で時間調整を行い、時間を十分に取つつ、面談での聞き取りで対応している。
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	自事業所や他の事業所の種類をふまえつつ、家族様や本人との面談を十分行い、見極めた対応を心がけている。
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	お盆拭きや洗濯たたみ、作業参加等、個々のできる範囲のことを協力願い、共に共同生活をしていることを意識していただいている。
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	病院受診や外出への取り組みなど、可能な範囲での参加協力を願い、入居者様について共に思いあえる関係を築こうと努めている。
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会者との交流や対話による回想は行えているが、実際に場所を訪れるための支援は厳しいものがある。病院の受診後、近場であったため、住んでいた家や墓参りにお連れできた程度しかない。
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	エプロンが外しにくそうであれば、職員が気付くより先に外そうとしてあげたり、危険行為をしようとしていれば、周囲が気遣い合っている。稀に口論や暴言が聞かれるが、仲裁で落ち着く。

自己	外部	項目	自己評価
			実践状況
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	利用を終了した本人様や家族様に何かあったら、いつでも相談に応じる姿勢を示している。
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>			
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の意向を確認しながらの対応を心がけている。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人様との対話や家族様からの聞き取りにより、把握できるよう努めている。
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	記録の活用も行いつつ現状の把握に努めている。変化等があれば、その都度、申し送りや報告で連携を取れるような体制作りをしている。
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	月に一度のミーティング時に話し合いながら作成している。家族様や関係機関には、面会時や電話での報告や相談を行っている。受診時には、医師にも確認・相談している。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	記録用紙や記入・記号の見直しを行いながら、情報共有を行い、見直しや支援の徹底につなげようと努めている。
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	必要・希望に応じての受診支援や散髪の実施に取り組んでいる。

自己	外部	項目	自己評価
			実践状況
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	最近では行えていない。(公園への散歩や幼稚園児との交流を図っていた。事業所内の散歩時に外を眺めての対話には役立っている。)
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時に協力病院に変更される方もいるが、本人様・家族様の希望や現状を考慮して、それまでのかかりつけ医での受診や対応の支援を行っている。
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護職は随時、何かあれば報告・相談をし、各フロアごとの看護師が責任を持って対応し、また、所属フロア外の場合も、協力・連携を行い、入居者様の健康維持等に努めている。
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には情報提供書を作成し、安心して入院していただけるように対応している。病院から連絡があれば、随時対応を行えるよう心がけている。常々から、協力病院関係者とは、受診時等で顔を合わすこともあり、良好な協力関係を築けるよう努めている。
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	状態に応じての話し合いを行い、職員全体で共有できるよう、変化があれば報告している。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	講習や訓練を行い、実践力の向上に努めている。
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防火訓練の実施から、避難方法や消火活動については学んでいるが、地震や水害については、訓練や対応は完全ではない。

自己	外部	項目	自己評価
			実践状況
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>			
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	常に心がけ、居室ドアの活用や声かけの注意を行いつつ、対応している。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	衣類やホールでの過ごし方、排泄の有無や意向等、声かけによる聞き取りから、自己決定を行えるよう工夫している。
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な時間や流れがある中で、状態に応じて、本人の希望にも応じながらの支援を心がけている。
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	髭剃りや洗面時、入浴後の髪の設定を意識することで、身だしなみやおしゃれへの配慮を行っている。
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事までの待ち時間に、一緒にメニューボードを確認している。認知症の進行や健康状態の変化に伴い、以前より準備は一緒に行えていないが、片づけ後のお盆拭きは継続できている。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	主食の調整、食事形態を嚥下力に応じて変更し対応している。また、病気の際には、その状態に応じて臨機応変に対応するように努めている。
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、それぞれの状態に応じて口腔ケアの実施や介助を行っている。また、訪問歯科医及び歯科衛生士からの指示等も考慮しながらの支援を行っている。



自己	外部	項目	自己評価
			実践状況
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	食事の前後や定時の声かけを行っている。
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分の適切な摂取、便秘状態に応じての下剤の調整と服用介助を行っている。
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	気分良く入浴していただけるように声かけを行い、本人様のタイミングが良い時に入浴していただいている。
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	希望や体調に応じて、ソファー・居室での入床等で休息の提供を心がけている。
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	把握し、観察しながらの現状である。また、随時変化の大きい場合、医師との連携を取るよう努めている。
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	レクリエーションによる楽しみの支援や、全員ではないが、読み書きや計算に取り組むことで喜びの支援をしている。周囲も一緒に励ましたり、褒めたりするなどの関係性を構築している。生活歴は活かしてきれていないが、栄養士をされていた方は、対話の中で食事について話を聞いている。
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	気候や希望に沿って、散歩に対応できるようにしている。普段は行けないような場所は、外食・おやつレク等で工夫・対応しており、計画時には家族様への案内や協力依頼を行っている。

グループホーム愛の里(3F)

自己	外部	項目	自己評価
			実践状況
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	普段、お金を使用する機会はないが、年一回の初詣の際には、極力本人様に賽銭として入れてもらえるようにお渡しし、支援・工夫している。
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があれば対応している。年賀状の送付・作成も行っている。
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関には、季節の花々や行事の写真、時季を感じられる飾りをしている。生活空間では、清潔感や移動の安全確保に努め、室温や湿度にも配慮している。
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食事をされる席やソファを使用する等、思い思いに過ごさせている。ソファは3人しか使用できないが、譲り合い等も入居者同士でみられている。
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた家具や仏壇等を持参していただいている。ほとんどの居室に加湿器を設置し、居心地良く過ごせるよう対応している。
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレや浴場が分からない方には、その都度誘導を行っている。排泄時、自ら陰部を拭くことのできる方は、取り付けているトイレットペーパーを上手に取って拭き取っており、見守りを行っている。